

日本の指導力発揮を望む

会員 北秀司

環太平洋経済連携協定（ＴＰＰ）交渉への参加をめぐり賛否両論が交錯しているが、米国、豪州、ニュージーランド、シンガポール、マレーシア、チリ、ペルー、ブルネイ、ベトナム、日本が参加するとして、各国の国内総生産（ＧＤＰ）を比べると、米国が 67%、日本が 27%、豪州が 4%で、この 3 カ国で 95%を占める。

日本はこの枠組みの中でリーダーシップを取るべき立場にあり、また取らねばならない。交渉に参加しても、日本の国益に沿わない部分があれば堂々と「ノー」と言えばよい。それでも不都合があれば参加をやめればよい。日本は今でもＧＤＰが世界第 3 位の経済大国である。リーダーシップを取り、自国の有利に持って行くのが外交力である。

ＴＰＰからは、中国を牽制する米国のアジア太平洋戦略も見え隠れする。ＴＰＰの枠組みにインドも加わり、インド洋、南シナ海、東シナ海、太平洋をつなぐ強力な国家連合が築かれることを望む。